

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2 | 使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	矢崎総業北海道販売株式会社新社屋	階数	地上4F
建設地	札幌市豊平区福住3条2丁目41-84	構造	S造
用途地域	準住居地域、第一種中高層住居専用	平均居住人員	0人
気候区分	1地域	年間使用時間	1,800時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年7月 予定	評価の実施日	2015年6月19日
敷地面積	5,847 m ²	作成者	
建築面積	2,386 m ²	確認日	
延床面積	5,905 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%
②建築物の取組み: 92%
③上記+②以外の: 92%
④上記+: 92%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項

総合	A 省エネルギー
<p>・ 建物を倉庫棟・事務棟・トラックヤードの3ボリュームにまとめ、高さを抑えながら敷地を有効利用、周辺への圧迫感を低減するよう配慮。</p> <p>・ 既存の住宅側トラック出入口を一般車の変更に、近隣環境への安全に配慮。</p> <p>・ 敷地外周部を緑地帯とすることで、景観に配慮。</p> <p>・ 寒冷地に対応した断熱計画等を行い、冷暖房負荷の低減に配慮。</p>	<p>照明にはLEDの採用、換気システムの効率化を行い建物全体の消費エネルギー低減を図る。</p>
<p>B 省資源等</p> <p>主要な躯体やその他にもリサイクル資材を採用する事により資源の保護を図る。</p>	<p>D 雪処理</p> <p>安全上必要な箇所にはロードヒーティングを敷設し、地盤面に対する積雪に配慮。屋根上の積雪は雪下ろしを行い、敷地内緑地帯及び駐車場を有して十分な雪溜めスペースをとることで、敷地内処理としている。</p>
<p>C 緑化</p> <p>寒冷地に強い樹種を選定し、土地の風土にあった植栽、景観を構築。敷地外周部を緑化することで、周辺環境及び景観に配慮。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される